

---

# 名刹と関白秀吉様

鳥居 秀樹

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

名刹と関白秀吉様

### 【Zマーク】

Z7098M

### 【作者名】

鳥居 秀樹

### 【あらすじ】

1587年。豊臣秀吉は、島津氏を服従させ、その凱旋途中に、九州、大宰府の名刹＝觀世音寺を訪れた。

当時の觀世音寺の別当は、世間知らずで、関白・秀吉の前を輿に乗つたまま通り過ぎようとする。

この態度に激怒した秀吉は、觀世音寺の寺領を全て没収してしまつ。

(前書き)

この小説はフィクションであり、実在の人物・建物等とは関係ありません。

( 1 )

九州大宰府にある觀世音寺は、九州の中でも、最も由緒正しき名刹の1つである。

しかしながら、訪れた観光客は「ここがある有名な觀世音寺？」と、首をかしげたくなる人が多いという。

由緒正しき名刹の割には、あまり保護を受けていない様に思われるからである。

觀世音寺の起源は、1350年も前に遡る。

西暦661年、女帝として名高い斎明天皇が亡くなつた際、その子である天智天皇が大変悲しみ、

母の菩提を弔う為に、発願したとされている。

約80年後の746年には、僧尼に戒を授ける戒壇を設置し、

奈良の東大寺、<sup>しもつけ</sup>下野の薬師寺と並ぶ日本三戒壇のひとつ。

330m四方の寺域の中には、講堂・金堂・五重の塔、等の建物があつた。

と大宰府の觀光案内には書いてある。

( 2 )

本能寺の変後、中國攻めからおつむ返しで帰つた豊臣秀吉は、明智軍を討伐し、

柴田勝家を凌いだ。

ポスト織田信長として頭角を表した秀吉は、その後、各地を平定。

関白・太政大臣にまで昇りつめた。

勢いに乗った秀吉は、薩摩の島津を服従させ、乗りに乗っている時、将に、飛ぶ鳥を落とす勢いであった。

1587年、その秀吉が、島津から凱旋の途中、大宰府天満宮に参詣した。

(3)

「この近くで休みてやーで。」秀吉が言つて、  
「それがよろしいかと思います。」石田三成が応えた。  
「近くに觀世音寺という有名なお寺が」やれこます。」三成が言つて、  
「かんせおんじ?」、「そこにはくでよー。」秀吉は了承した。

延暦寺や本願寺等、数々の寺社を相手に戦つて来た秀吉には、觀世音寺が由緒正しき、歴史ある名刹であつても、関係無かつた。  
「ここがいいでよー。」秀吉は觀世音寺の鎮守社＝日吉神社に陣を張つた。

「周りを見て見てやーで。」

秀吉は、日吉神社から見える景色が、京都や奈良の山から見える景色に似て好きであった。

近衆の家来達を引き連れ、周りを見物に出かけた。

「それにしても島津は強かつたでよー。」

「大友も毛利も、もうちょっとやると思つとつたもんだでよー。」「長くなつてしまつたがね。」

島津を服従させた凱旋の途中だけに、秀吉は機嫌が良かつた。天氣も良く、新緑の緑が青空に映えて、気持ちの良い日であった。「三成、島津の事は、頼んどくでよー。良くしたつてちょー。」

丁度その頃、觀世音寺の別当（仏教坊主が神主を兼務している場合、寺の住職を別当といつ。）の所へ、秀吉の家来から、

「関白、秀吉様が日吉神社で陣を張っているので、拝謁に来る様に。

」

との連絡が入った。

別当は急な事に驚き、ここ一番の正装を着て、寺の者4人に輿を担がせ、いつもの様に出かけた。

暫く行くと、わいわいがやがやと、侍らしき集団がこじりひに近づいて来るのが見えた。

良く見ると、侍らしき甲冑を受けた者達の先頭で、見るからに派手な金色と赤色に輝く、

陣羽織と袴を受けた、猿の様な顔をした小男が、侍達に向かって何かしやべっているのが、

輿の上から見えた。

九州の武将は、皆、揃つて恰幅が良く、日焼けした歴戦の勇者という感じで、

見た目だけで、相手を威圧する様な風貌の武将が多くった。

觀世音寺の別当は、まさか、その猿顔の派手な小男が、数々の戦いに勝ち続けた武将 関白・秀吉様

であるとは、思いもよらなかつた。

別当は、輿に乗つたまま、通り過ぎようと、前に進んだ。

その瞬間、猿顔の派手な小男と目が合つた。

目が合つたまま、しばらく時が止まつた。

秀吉の顔が、怒りの顔に変化すると、別当が「しまつたー」と思

つたのは、ほぼ同時であった。

秀吉側近の家来が、輿に手を掛け、觀世音寺の別当を引きずり降ろした。

「なに奴か！」「名を名乗れ！」

秀吉の顔は、怒りに震えていた。

「関白様の前を輿に乗ったまま通り過ぎるとはー貴様ー！覺悟は出来ているだらうな！」

側近の家来は、別当の体を地面に何度も叩き付けた。

当時の日本で、関白・秀吉より偉い者は一人もいなかつた。

「陣に連れて行け！」秀吉の顔はまだ怒っていた。

(5)

秀吉の陣での取り調べの内容は、記録に無い。  
しかしながら、この時の罪により、激怒した秀吉が、觀世音寺の別當職の解任はもとより、

觀世音寺の寺領を、没収してしまつた事からも、内容の過酷さが伺える。

時の権力者に睨まれ、江戸時代に黒田藩主によつて復興されるまで、  
觀世音寺の衰退は続いた。

現在、觀世音寺の鐘は、国宝に指定され、厳重に保護されてゐる。

## (後書き)

小説を読んで頂き、有難うございました。

小説は、私が觀世音寺を訪れた際に、目にしたもの、題材にしました。

歴史ものとしては、秀吉の人柄や、当時の九州の状況を想像出来、比較的、面白く出来上がったのでは、と思っています。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7098m/>

---

名刹と関白秀吉様

2010年10月15日22時02分発行